

◎着物を活用した商品「FUGURO」の製作・販売や更なるブランドづくりを通じて女性製作者たちの育成と自立を支援

No.02	“女性を担い手としたふるさとの未来創り ～地域ブランド構築とビジネス化コーディネート事業～” (H25)		
実施主体	一般社団法人 WATALIS	実施市町村	宮城県 亶理郡亶理町

◎事業の背景

事業所数が被災により減少し、被災前の就労を維持することが困難な状況ある。また、建設業、建設業や警備員など、震災(復興)に関連した業種に求人が偏る傾向があり、求職者の希望との間にギャップが生じ、求人・求職のミスマッチの状況が続いている。

平成 24 年度に当法人の前身団体 WATALIS として、地域復興てしごとプロジェクトや、②みんな de 手しごとプロジェクト事業を実施し、多くの地元の女性たち(①手仕事製作者約 30 名、②ワークショップ参加者延べ 1,259 名)と対話を繰り返す中で、「ライフスタイルに応じた就労の機会を獲得したい」「自らの持つ技術を活かして適正な収入を得たい」「自宅で仕事をしたい」というニーズが多数あるものの、これらに対応できる在宅就労の機会を提供し、適正な賃金を支払うことができる事業は少ないのが現状であった。また、被災地域である亶理町では、地元での就労の機会は震災前に比べて減少していることは明らかであり、特に子育てや介護による時間的制約の大きい世代の女性にその傾向が顕著にみられることが分かってきた。こうしたことから、女性がそれぞれの技術力を活かし、就労可能時間に応じた働き方を選択できる『みやぎらしい女性の就労モデル』を創り、地元での雇用を創出する持続可能なソーシャルビジネスモデルの構築に係る「地元の担い手となる人材の育成」「地域資源を活用した特産品開発」が短期的な課題であると考えられる。

◎事業の概要

地域の担い手である手仕事の製作者を主体とした女性のワーキンググループを組織し、未活用地域素材(地域に眠る着物)を活用した地域ブランド構築とビジネス化に向けて、「学びの機会」「地域ブランド」「ネットワーク」を創る3つの取組を実施する。地域の産業育成・産業支援に必要な能力・経験・資源を有する協力先(生活協同組合連合会グリーンユープ連合、株式会社丸井グループ、株式会社センスオブライフ)と連携し、関係者をコーディネートしながら、亶理町を拠点に活動する中間支援団体である一般社団法人 WATALIS と担い手が協働して事業を実施する。

当該活動は、亶理町を拠点として活動する中間支援団体一般社団法人 WATALIS が、「ふるさとの未来創りワーキンググループ」に体系的かつ継続的に研修の機会を提供し、地域の女性達が自らの手で特産品開発を通して被災地域の経済の活性化や先に述べた地域課題の解決に取り組むことを支援するものである。具体的な支援内容は下記の通りである。

- 取組 1. 学びの機会創りワーキング【担い手の人材育成】
- 取組 2. 地域ブランド創りワーキング【特産品開発】
- 取組 3. ネットワーク創りワーキング【販売ネットワークの構築】

専門家からノウハウを学び、指導助言を受けながら、潜在的な地域資源を活用した手仕事による特産品を開発、製作、販売する。地域ブランド商品(特産品)を生み出し、販売に至るまでの活動に主体的に取り組むことで、担い手の能力向上が図られるとともに、担い手としての責任感や主体性を高める。加えて、一般社団法人 WATALIS の中間支援団体としてのスキルの向上や新たなノウハウの習得を図る。

ステークホルダー	役割
①一般社団法人 WATALIS	事業全体の企画・運営、協力先との調整・連携
②女性の製作者（ふるさとの未来創りワーキンググループ）	支援対象であり、FUGURO をはじめとする商品の製作、販売を担いながら新たなブランド構築や商品開発に取り組む
③生活協同組合連合会 グリーンコープ連合	マーケティング、地域ブランド、商品開発、ネットワーク構築等に関する研修会の講師
④株式会社 丸井グループ	マーケティング、地域ブランド、商品開発、ネットワーク構築等に関する研修会の講師
⑤株式会社 センスオブライフ	マーケティング、地域ブランド、商品開発、ネットワーク構築等に関する研修会の講師

（１）中間支援の特徴（取組の中で見られた工夫や取組が上手く進んだポイント等）

- …中間支援における特徴的な工夫 ●…中間支援における失敗と対応

実施前（～平成24年度）

●地域に眠る着物の活用に可能性を感じ、地域の文化と融合させた「FUGURO」を商品化

引地氏（WATALIS 代表理事）は、町の資料館職員時代、地元の歴史や文化を記録していく町史の編纂に携わり、民俗学の学識経験者と調査を行う中で、「ふぐろ」という文化に出会った。「ふぐろ」とは、農家の人が、家族の衣類を仕立てた残りの反物で仕立てた袋のことで、かつてはその袋にお土産やお礼として米などを入れて渡していたということであった。

調査活動を通じて知り合った地元高齢者から、以前は家族の衣類を全て反物から仕立てていたという話も聞き、そのような文化を地域で伝えていく必要があると感じていた中で、亘理町の歴史をよりたくさんの方に広めていくための方法を探していた。

その後、東日本大震災を経て、全壊判定となった商店を取り壊すにあたり、資料保存を目的に調査に出向き、呉服屋などを調べる中で、多くの着物地が見つかった。そこで、これを材料にかつての文化であった「ふぐろ」を製作し、販売していくことで着物や地域の文化を伝えていくことを思いついた。そうして、「FUGURO」の作成に至ったのである。

その後、いくつかのイベントを通じて販売していく中で、少しずつ知名度が高まっていった。

●妥協せず商品の質の高さを追求したことがプロの高評価と協力を獲得

「FUGURO」のデザインについては3～4人のスタッフで何度も試作品を重ねて作り上げたものである。高品質を維持するために、表地（着物柄）と裏地（色）の組み合わせ、細部のデザインや仕上げに至るまで細かく作業が決められており、高度な技術を必要とする部分は熟練度の高い製作者が行う。また、仕上げられた製品は、高い製作スキルをもつスタッフによる厳しい検品も行っている。この高品質を生み出し維持する体制が、プロのバイヤー（株式会社センスオブライフ）からも高い評価を得て、百貨店等での販路確保につながっている。

実施中（平成25年度）

●女性製作者メンバーの思いを大切にした議論の積み上げが製作者自身の自覚や責任感を醸成

商品開発やブランド化を検討する研修会では、製作者である女性メンバーの考えや意見を大切に、それらを積み上げていくことで、「WATALIS」や「FUGURO」に込められた製作者の思いや感謝の気持ちが共有された。そのプロセスが、女性製作者の自覚や責任感の醸成につながり、具体的なアウトプットとして、デザインやロゴの制作ができた。ロゴデザインについては、地元仙台のプロのデザイナーを起用している。また、製作者一人一人が「WATALIS」や「FUGURO」に込められた思いや願い、感謝の気持ち等を改めて理解・共有したことで、ブランドづくりにおいて何を大切にすべきかが明確になり、ストーリー性の高いブランドづくりにつながった。

●女性製作者メンバーの主体性を重視しつつ、仕事への責任感を醸成する支援

「FUGURO」製作活動への参加、継続の意思決定はメンバー本人の意思に任せている。また、製作にあたっては、作業を始めたばかりのメンバーが技術的にうまく製作できない場合には、どのようにすれば上手くできるかを自ら考えてもらえるように促し、克服してもらうようにしている。そして、質の高い商品を作り続けることの大切さを伝えるために、検品をクリアしない場合は何度もやり直してもらうことにしている。

このように、本人の意思を尊重しつつ、仕事の厳しさを体験してもらいながら仕事への責任感を芽生えさせる支援を行っている。

●女性製作者メンバーのモチベーションの維持・向上

「製作者メンバーのモチベーションを保つには、仲間がいて、会って活動することが重要」だと語る引地氏。職場では、日々の交流を楽しみながらも、メンバー間の呼び方、話し方などには留意し、職場に馴染みは持ち込まないことをルールとしている。

また、納期への対応等に対して頑張ってくれたメンバーには賞与を出したり、定例会でメンバーへ報告することも行っている。そして、これまでは引地氏・橋元氏の2人でイベント等での販売を行ってきたが、メンバーにも積極的に売場に出てもらい、販売を体験してもらうようにした。商品が実際に売れていること、お客さんの反応を肌で感じることでメンバー自身の成功体験となり、自信につながっている。

その他にも、これまで理事が中心となってきた事務的な仕事を内勤のパートタイムのメンバーに振り分け、組織として動いていくことをメンバーに学んでもらう機会をつくっていくことで、メンバーのスキルアップにつなげている。

●製作者の熟練度に応じた作業と工賃の配分により、製作者の自立を促進

「FUGURO」製作の作業工程を技術的な難易度で細分化され、難易度に応じて工賃も設定されている。

初心者は簡単な作業から始めてもらい、技術力の高いメンバーには高度な技術を必要とする作業や完成品の検品を担ってもらうなど、能力や適性に応じた作業配分によって、品質を維持するとともに、製作者メンバーのレベルアップのプロセスを明確にしている。

いずれは製作者メンバーそれぞれが独立していくことも視野に入れており、製作者の取組姿勢の向上や自立促進につながっている。

(2) 取組の変遷

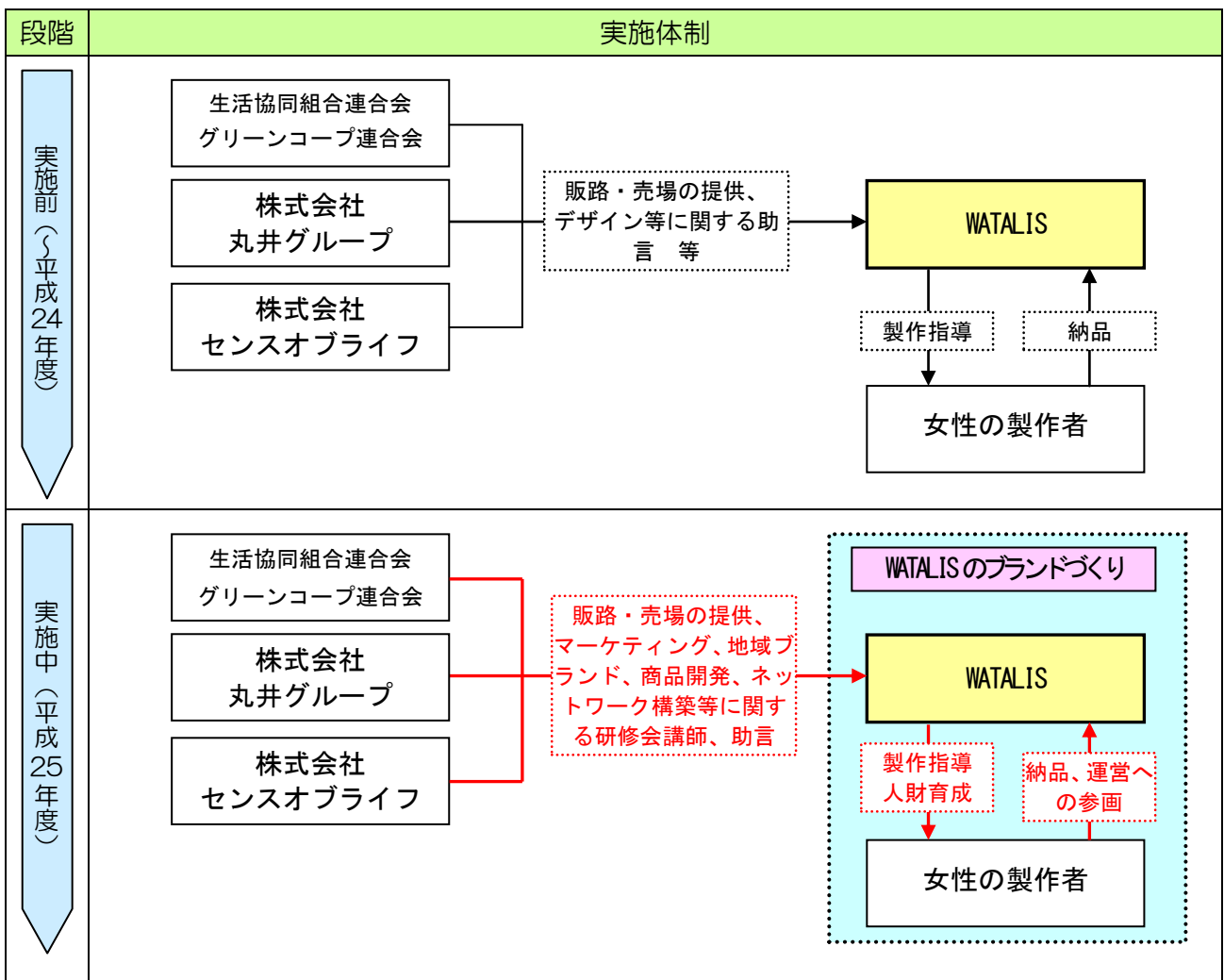
※表中青字下線部の内容は「(1) 中間支援の特徴」で詳述

	主な課題	対応・工夫	効果・成果
実施前（平成24年度）	<p>○地元の女性達の働く場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災によって、女性の働く場が激減する中、女性の生き方を見直し、ライフスタイルに合わせた仕事を求めるニーズを感じていた。 	<p>○地域に眠る着物を活用して商品化</p> <ul style="list-style-type: none"> 当時、町の職員として地域の調査を行っていた引地氏は、震災で全壊した呉服店で使われないままになっている多くの着物地を見つけ、地域の文化として残る「ふぐろ」を着物でリメイクして、おしゃれな小物「FUGURO」として売り出すことを考えた。 何度も試行を重ねて商品化にこぎ着けた。 	<p>○WATALISの本格的な始動</p> <ul style="list-style-type: none"> 「FUGURO」が商品化され、製作活動が本格化する中、引地氏はWATALISの代表として活動に専念することを決め、任意団体WATALISを立ち上げた。（平成25年4月に一般社団法人化）
	<p>○魅力を感じて買ってくれる商品にすることが重要</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災した地域の商品だからといって、同情で買ってもらえるようなものではなく、きちんと質の高さを評価してもらった上で買ってもらえる商品づくりを重視した。 	<p>○妥協しない試作の積み重ねと厳しい検品</p> <ul style="list-style-type: none"> 「FUGURO」のデザインの決定には何度も試作を積み重ねた上で決定した。 「FUGURO」の作業は細部のデザインから仕上げに至るまで細かく決められており、高い製作技術をもつ製作者の厳しい検品も行っている。 	<p>○プロからも高い評価を得る</p> <ul style="list-style-type: none"> 高品質を生み出し続ける妥協しない体制が出来上がっていることから、プロのバイヤーからも高い評価を得て、様々な催事や百貨店等で販売の機会を得ている。
実施中（平成25年度）	<p>○コアメンバーへの負担増</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで理事を中心に事務作業等を行っていたが、事業規模の拡大に伴い負担が大きくなっていった。 	<p>○女性製作者の思いや考えを重視した意見交換の積み上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品開発やブランド化を検討する研修会では、女性製作者メンバーの考えや意見を大切にし、それらを積み上げていくことで、「WATALIS」や「FUGURO」に込められた製作者の思いや感謝の気持ちが共有された。 	<p>○製作者の自覚や責任感の醸成、ストーリー性の高いブランドづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> そのプロセスが、女性製作者の自覚や責任感の醸成につながり、具体的なアウトプットとして、デザインやロゴの制作ができた。ロゴデザイン制作には、地元仙台のプロのデザイナーを起用した。また、ブランドづくりにおいて何を大切にすべきかが明確になり、ストーリー性の高いブランドづくりにつながった。
	<p>○女性製作者の自立促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来的な自立も見据えて、女性製作者には仕事の厳しさを経験してもらいながら主体性を醸成することを考えていた。 	<p>○メンバーの意思を重視する</p> <ul style="list-style-type: none"> 製作活動への参加、継続の意思決定はメンバー本人の意思に任せている。また、製作上なかなかできない壁にぶつかっても、どのようにすれば上手くできるかを自ら考えてもらえるように促し、克服してもらうようにしている。 	<p>○責任感の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕事の厳しさを体験してもらうことで、仕事への責任感を芽生えさせる機会としている。
		<p>○仕事の幅を増やし、メンバーの頑張りを適切に評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 納期への対応等で頑張ってくれたメンバーには賞与を出したり、製作だけでなくイベント販売等も体験してもらい、商品が売れることやお客さんの喜ぶ姿を肌で感じることにした。 	<p>○モチベーションの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> メンバー自身の達成感や成功体験となり、自信にもつながって、取組意識が高まった。
		<p>○参加者の主体性を引き出す話し合いの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 「FUGURO」製作の作業工程を技術的な難易度で細分化され、難易度に応じて工賃も設定されている。 初心者は簡単な作業から始めてもらい、技術力の高いメンバーには高度な技術を必要とする作業や完成品の検品を担ってもらうなど、能力や適性に応じた作業配分をし、製作者メンバーのレベルアップのプロセスを明確にしている。 	<p>○自立も視野に入れた成長に寄与</p> <ul style="list-style-type: none"> いずれは製作者メンバーそれぞれが独立していくことも視野に入れており、製作者の取組姿勢の向上や自立促進につながっている。

(3) 実施体制の変遷

生活協同組合連合会 グリーンコープ連合（生協）、株式会社マルイグループ、株式会社センスオブライフとは、モデル事業実施前よりつながりがあり、「FUGURO」の質の高さが評価されたことから、生協の宅配サービスのカタログに掲載したり、イベントや百貨店で販売の機会を提供されたりして、「FUGURO」の知名度が少しずつ高まっていった。

平成 25 年度では、コアメンバーである理事 3 名でほとんどの業務をこなしていたことから、他の女性製作者にある程度仕事を任せながら、人材育成を図っていくこと、そして、生協、株式会社マルイグループ、株式会社センスオブライフの協力を得ながら、WATALIS のブランドをメンバー間で再確認・共有し、ブランド力を高めていくことに取り組んだ。ブランド力を高める新たな商品として、「FUGURO」のオーダーメイドシステムを考案。今後、実現に向けてさらに検討を進めることになっている。



(4) 成果と課題

(事業の成果)

◎新たな商品としてのオーダーメイドシステムの提案

自立的な中間支援活動を継続していくために必要な収益の確保に向けて、顧客から着物を預かり、顧客の要望を聞きながらオーダーメイドで「FUGURO」を製作して顧客に返す高付加価値サービスの事業化が決定し、新しい団体のロゴマークや販促ルーツ（チラシ）も制作し、具体的な検討を進めている。

◎女性製作者の育成と自立を支援する体制の構築

これまでコアメンバーである理事（3名）で対応してきた事務作業やイベントでの販売、その他の対外的な調整・対応といった仕事を、女性製作者メンバーにも積極的に振り分けていくことで、コアメンバーの負担軽減になるとともに、メンバーの自立に向けた成長にもつながった。

(事業の課題)

◎自立的な活動のための収益の確保

平成 24 年度（平成 25 年 1 月末時点）は約 700 万円の売り上げであったのに対し、平成 25 年度（平成 26 年 1 月末時点）は約 1,250 万円となり、550 万円の売上増となった。

しかし、自立的な事業継続のためには、年間 3,000 万円ほどの売上が必要であり、今後も収益向上に向けた取組が大きな課題となっている。

(5) 今後の展望

◎オーダーメイドシステムによる商品の高付加価値化

2 回目のセミナーで、依頼者の思い、それに対する作り手の思いが呼応するようになりたいという意見が出た。メンバーに自信がついたから出た意見だと考えられる。そのようなやる気があるメンバーへ伸びしろの部分を広げていきたいと考えている。それは、技術レベルの高い人に平等に工賃を支払うことができるシステムでもあると捉えている。

実施にあたっては、場所、連絡方法の確保、やりとりのフォーマットの検討など、課題は多い。

預かった反物から複数の商品を作成したり、残った反物を一定期間保管するなど、WATALIS ブランドとして提供していくサービスを顧客が望む立場となって考えることが必要である。

オーダーメイドを受けるにあたっては、作り手により商品の出来上がりに違いが生じたり、複数の商品のレベル・質をどのようにコントロールしていくか、という点も課題である。

◎女性製作者の独立

WATALIS での経験を積んで、いずれはメンバーの中から独立する者が出てくることを願って、引き続き支援を行っていく。